

最近の雇用情勢について

(平成30年8月)

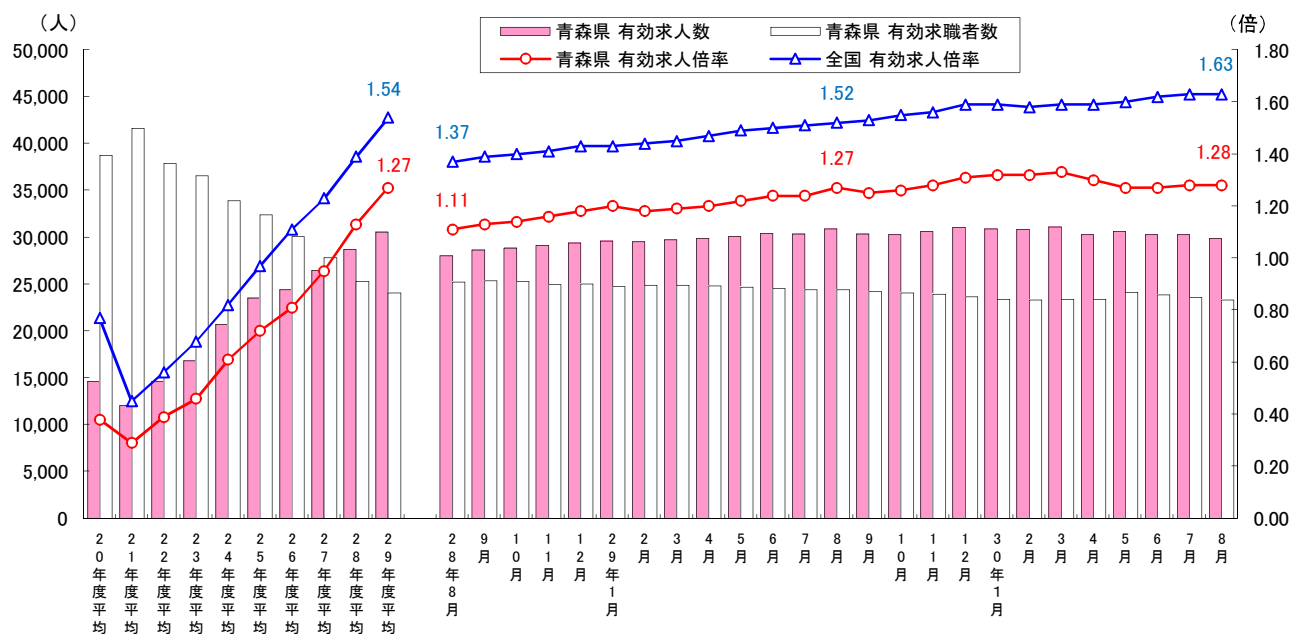
青森労働局

I 求人・求職・受理地別求人倍率の推移(季節調整値)・・・年度平均は原数値

8月の一般職業紹介状況をみると、有効求人数(季節調整値)は前月に比べ1.3%減少し29,877人、有効求職者数(同)は1.1%減少の23,335人で、有効求人倍率(同)は1.28倍となり、前月と同水準となった。

就業地別の有効求人倍率(季節調整値)は1.39となり、前月を0.01ポイント上回り、受理地別の倍率を0.11ポイント上回った。

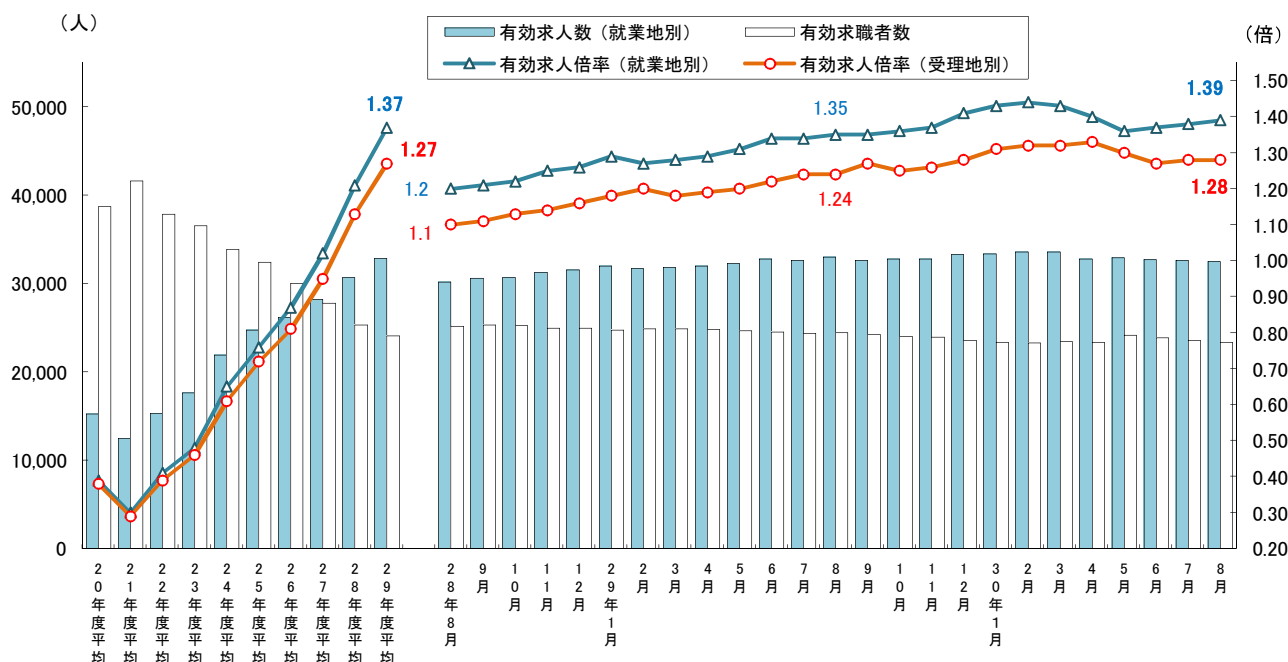
受理地別有効求人倍率の推移 (全数・季節調整値)



※ 県内のハローワークで受理した求人数から求人倍率を算定。

【参考指標】

就業地別有効求人倍率の推移 (全数・季節調整値)



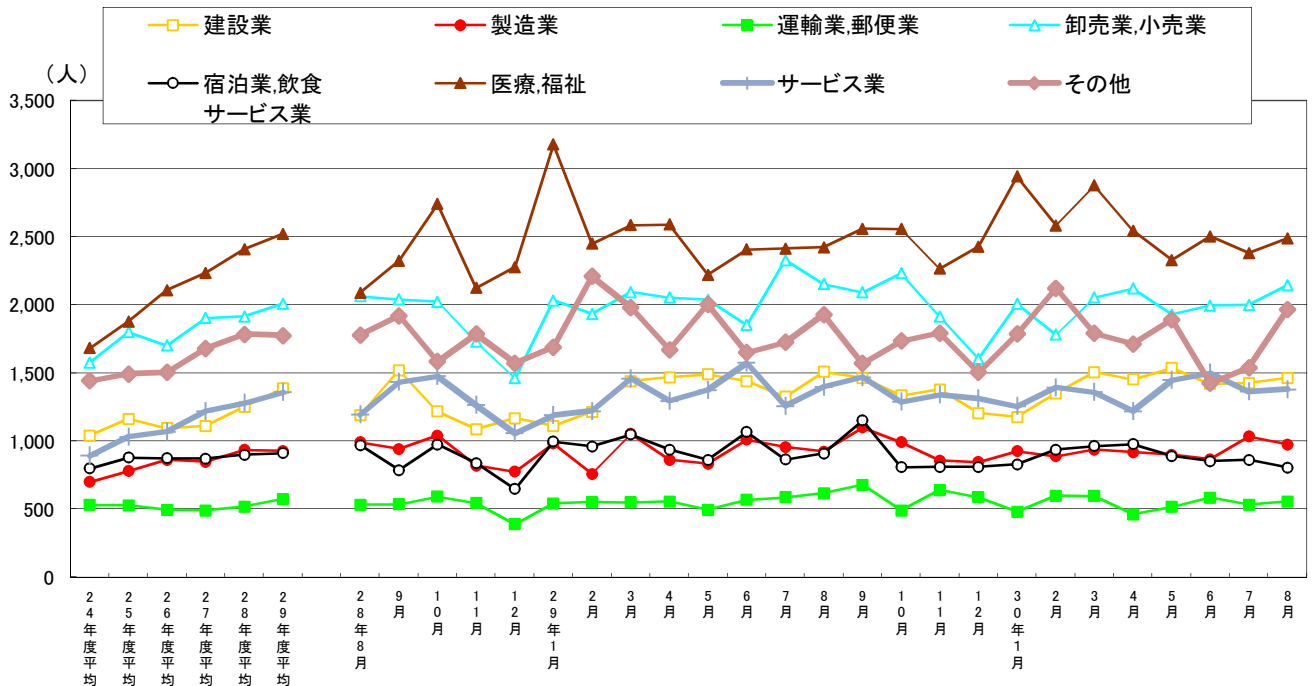
全国のハローワークで受理した求人で、就業地が青森県内となっている求人数から求人倍率を算定。
季節求人については、受理したハローワーク管内を就業地としてみなしている。
就業地として複数の市町村が挙げられている場合は、求人数を該当の市町村に割り当てることにより集計。

(注) 季節調整法はセンサス局法Ⅱ(X-12ARIMA)による。なお、平成29年12月以前の数値は新季節指数により改訂されている。

II 新規求人の状況(学卒を除きパートタイムを含む)

8月の新規求人数(原数値)は前年同月比0.7%(83人)減少の11,778人。

産業別で前年同月と比較すると、製造業、医療・福祉等で増加し、建設業、運輸業、郵便業、卸売業、小売業、宿泊業、飲食サービス業、サービス業等で減少した。製造業では、食料品製造業、飲料・たばこ・飼料製造業、繊維工業、印刷・同関連業、情報通信機械器具製造業、輸送用機械器具製造業等で増加したが、パルプ・紙・紙加工品製造業、鉄鋼業、非鉄金属製造業、金属製品製造業、電子部品・デバイス・電子回路製造業、電気機械器具製造業等で減少した。



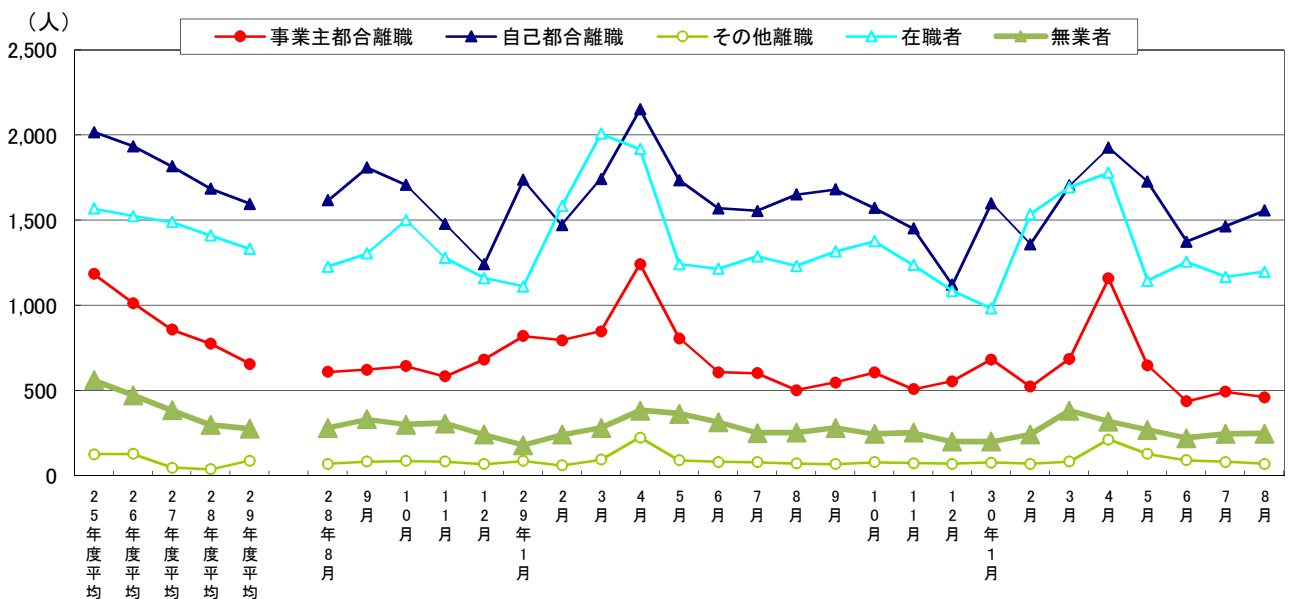
平成26年4月内容分より、平成25年10月改定の「新産業分類」での集計となっています。
 『その他』には、「農・林・漁業」「鉱業」「電気・ガス・熱供給・水道業」「情報通信業」「金融・保険業」「不動産、物品賃貸業」「学術研究、専門・技術サービス業」「生活関連サービス業、娯楽業」「教育、学習支援業」「複合サービス事業」「公務、その他」を含みます。

III 新規求職の状況(パートを除く常用)

8月の新規求職者数(原数値)は、前年同月比7.6%(292人)減少の3,536人。

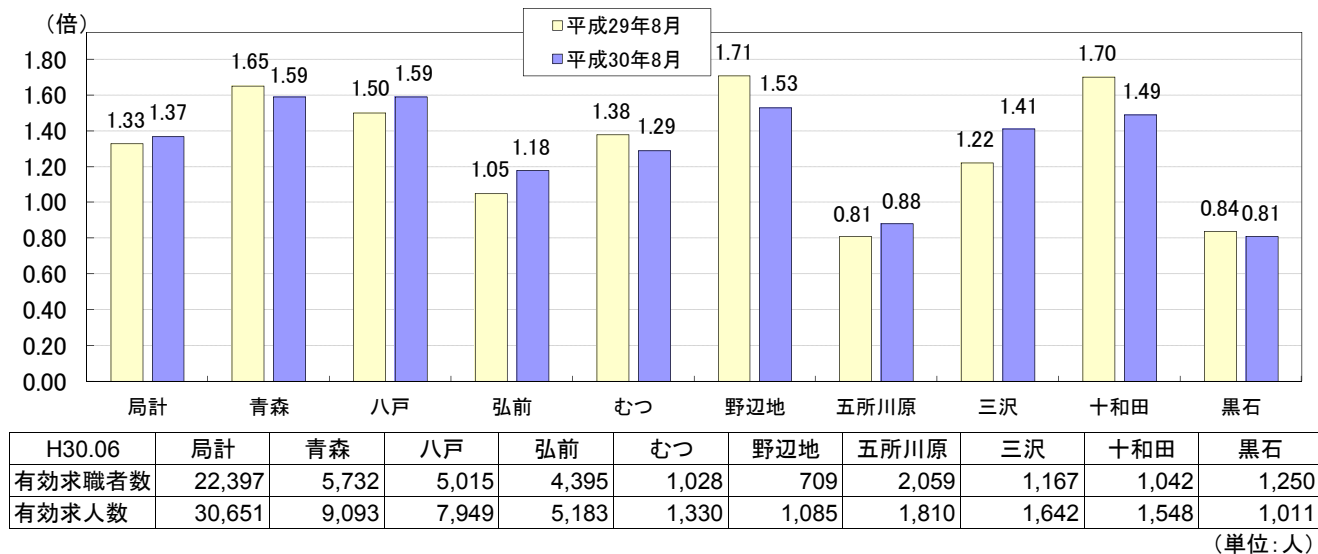
求職者を態様別に前年同月と比較すると、在職者は9.0%(119人)減少し、離職者は6.2%(139人)減少、無業者は12.1%(34人)の減少となった。

離職理由でみると、事業主都合は8.3%(42人)の減少、自己都合は5.7%(94人)の減少となった。



IV 安定所別求人倍率の状況(学卒を除きパートタイムを含む全数・・・原数値)

8月の局計の有効求人倍率(原数値)は1.37倍となり、前年同月を0.04ポイント上回った。
各安定所別の有効求人倍率は次のとおり。

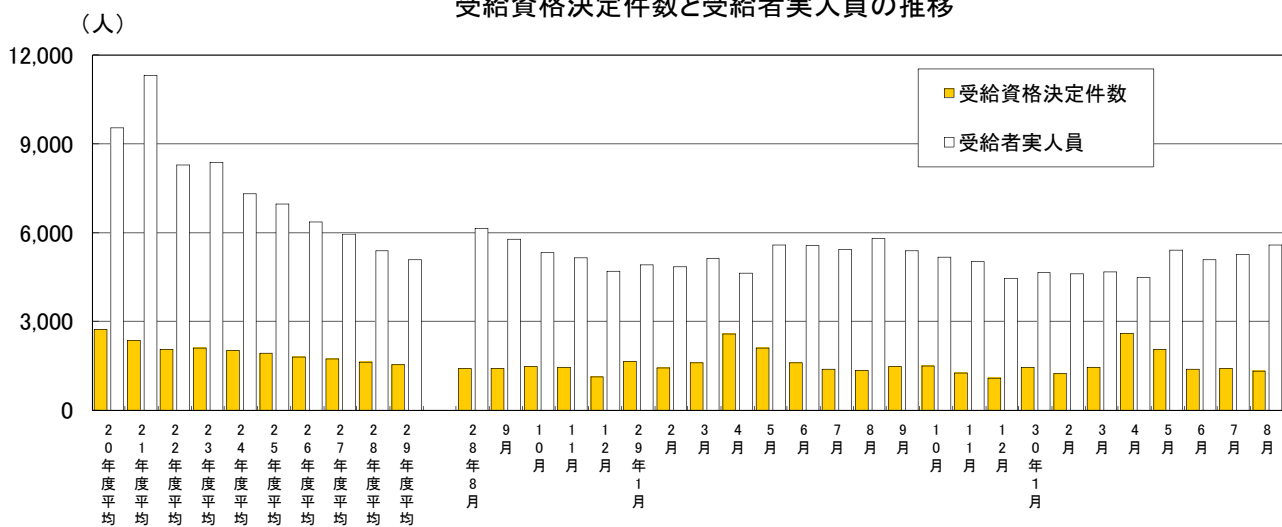


V 雇用保険の状況

8月の受給者実人員(基本手当基本分)は、前年同月比3.8%(220人)減少、前月比では5.9%(313人)増加の5,585人となった。また、受給資格決定件数は、前年同月1.6%(21件)減少、前月よりも5.8%(81件)減少し1,323件となった。

資格喪失者(高年齢、短期特例被保険者を除く)のうち事業主都合による者は、前年同月比3.9%(8人)減少、前月比41.6%(139人)減少し195人となった。

受給資格決定件数と受給者実人員の推移



事業主都合による資格喪失件数の産業別推移

